

底デカラ

産業資源循環の

—vol.2—

岡崎リサイクルセンター

資源、エネルギーの有効活用、
廃棄物の削減、リサイクルを継続的に推進し

社会インフラを支える 工事現場をバックアップ

自然環境を守りながら 業界の新しい未来を創り上げる

建設現場で発生するアスファルトがらやコンクリートがらといった産業廃棄物を中間処理し、再生資源として販売することで、マテリアルリサイクルを実現している「岡崎リサイクルセンター株式会社」取材しました。

建築現場でニーズを感じ、 産業廃棄物処理業をスタート



土木建築工事を手がける「株式会社石川工務店」から、建設現場で発生する産業廃棄物の処理ニーズに応えるかたちで、産業廃棄物処理部門として1993年（平成5年）に設立されたのが「岡崎リサイクルセンター株式会社」。

建設現場で培ったノウハウを活かし、当初は汚泥処理からスタートしましたが、扱う品目を少しずつ拡大し、現在では岡崎市に2つの工場を構え、収集運搬から中間処理までを一貫して行っています。

真福寺工場では、建設現場などで発生した様々なものが混ざった状態の廃棄物を、リサイクルがしやすい品目別に選別する機能に加え、道路工事などで発生するアスファルトがらやコンクリートがらをリサイクルプラントで中間処理（破碎）。主に道路のアスファルトの下に敷く路盤材等として使用されるRC-40（再生砕石）へと製品化し販売しています。

また、宮石工場では、建設現場から出る建設汚泥を分級脱水プラント等で中間処理し、「改良土」や「再生砂」といった再生資源へとリサイクルし販売するなど、建設現場を支える資源循環の一端を担っています。



底デカラ 産業資源循環の

詳しくはP61まで

掲載希望大募集中!!

「我が社こそは!」という
熱い想い、お待ちしております!

愛知産業資源循環協会に所属する会員企業を訪問し、そのこだわりや強みを取材させていただく企画です。会員企業の独創的でユニークな発想や考え方、業界を盛り上げようとする姿勢に迫りながら、愛知県における経済活動のアンカーマンとしての役割を担う産業廃棄物処理業の社会的地位向上を目指し、その必要性をより広くの方に知っていただければと思います。

底デカラ 産業資源循環の
とは?





収集されたアスファルトがらやコンクリートがらは、リサイクルプラントで破碎される



運搬時には飛散防止用のシートも着用でき、油圧ダンパーを使用した屋根付きコンテナを所持



計量中の自社運搬車両

現場に応じた収集運搬設備、 多彩な収集運搬車両を保有

産業廃棄物を収集運搬する際に求められる多様な条件に対応できるよう、10tダンプや10t強力吸引車、4t脱着式コンテナ車、ユニック車などを所有し、安全・安心な運搬を徹底しています。

また、現場の状況に応じたコンテナや収集運搬設備も充実しています。なかでも、油圧ダンパーを搭載した屋根付きコンテナは、スムーズな開閉が可能で、雨天時の対応や不法投棄防止はもちろんのこと、視覚的な配慮にもつながり、現場の課題解決に対応したコンテナとして高い評価を得ています。

土木建築工事の現場からスタートした背景を活かし、現場のことを深く理解した上で、きめ細かなニーズに応じたサービスを提供することができています。



限られた資源を有効活用 継続的にマテリアルリサイクルを実現

建設現場から出たアスファルトがらやコンクリートがらをRC-40へ、建設汚泥を改良土や再生砂へと製品化し、再生資源として販売するなど、資源循環の一部を自社で完結できている点が、岡崎リサイクルセンターの大きな強みです。

「RC-40は年間で約50,000tを出荷しており、主に道路などの路盤材として使用されています。再資源として使用することで、新たな碎石の採掘量を減らすことにより、自然環境の保護にも役立っていると思います。」と話す、執行役員 営業部長の宮本豊さん。

回収した産業廃棄物に適切な処理を施し、再び価値ある資源として販売するというサイクルを作ることによって、資源を有効活用できるのはもちろん、自然環境の保護にも繋がっており、“廃棄物の削減、リサイクルを継続的に推進し、循環型社会の一翼を担う”という企業スローガンのもと日々、選別精度の向上を念頭に作業に取り組んでおり、リサイクル率は重量ベースでおおむね99%前後を維持しています。



リサイクルプラントで破砕処理され、「RC-40」として生まれ変わる

安全衛生情報 ABOUT ヒヤリハット

**朝礼前にセクションリーダーミーティングを実施。
客観的に他部署を見ることで不安全行動が減り、
社内のコミュニケーションも積極的に行われるように！**

毎日の朝礼の前には、破砕プラントや運搬業部門など、異なるセクションのリーダーが集まり、現場で気付いた危険な行動や気になることを、客観的な視点で率直に話し合い、その後の朝礼で従業員に共有しています。同じ部署内では気が付かないことがあるのはもちろん、「見られている」という意識を持つことが行動の改善にもつながっています。気になりながらも見過ごされていたことが可視化されるようになり、部署を超えたコミュニケーションも活性化。現場全体の風通しが良くなってきています。





「あって良かった」「困ったら相談してみよう」 そんな存在を目指しながら、地域の建設工事を支える

いかに無駄をなくし、エネルギーの使用量を減らしていけるかチャレンジする中で、「エコアクション21」を認証取得。さらに、岡崎市で一番最初に優良産廃処理業者認定を受けました。未来を見据え、常に新しいことにチャレンジする社風のもと、今の時代のニーズに応える最新のプラントを導入することで、より幅広い廃棄物の処理を可能にし、次のステージに進む準備を着実に進めています。

営業部の石川瑞基主任は、「愛産協の会員になり業界とつながることができたことで、自社で処理できないお客様からの依頼に関しても、他社に委託するなどして要望に応えられるようになりました。“岡崎リサイクルセンターがあって良かった”“困ったらとりあえず相談してみよう”そんなふうに思ってもらえる存在になりたいです。」と力強く話します。

今後ますます、環境への意識や業界を取り巻く法律なども変化していくことが想定される中、岡崎リサイクルセンターでは、柔軟な対応力を活

かし、地域の建設工事の現場を支えながら、社会インフラづくりの“縁の下の力持ち”として、資源の再利用法を検討し続けています。

取材当日も、アスファルトがらを積んだトラックが次々と到着し、荷物を下ろし、そして製品化されたRC-40を再び積み込み、工場を後にする様子を何度も目にしました。まさにここでは“見える循環”が日常の風景として定着しており、資源循環の現場を肌で感じることができました。

Message

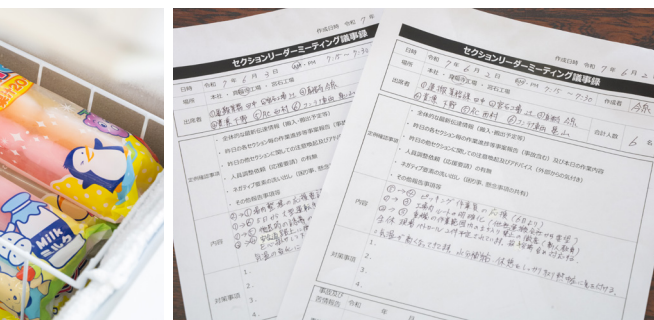
社会的インフラを担う意識とプライドを持ち 職場環境の改善や女性の活躍促進にも力を入れる

数年前と比べ、環境に対する社会の認識や業界の見られ方は大きく変化してきましたが、まだまだ十分に理解されていない部分も多くあると感じています。そこで先日、地域住民の皆さまを対象に工場見学会を開催しました。「臭いがあるのでは？」という先入観をお持ちの方も多くいらっしゃいましたが、実際にご覧いただいたことで、どのような処理が行われているのかをご理解いただくとともに、「工場内は臭いもなく、想像以上にきれいだった。」といった驚きの声も多く寄せられました。こうした取り組みを地道に続けることで、当社だけでなく業界全体への信頼向上にもつながっていきたくと考えています。

産業廃棄物処理業は、社会インフラを支える重要な役割を担っており、循環型社会の構築に貢献するという意識と誇りを持って業務に取り組むことが求められます。そのためには、働きやすい職場環境の整備や、女性がより活躍できる職場づくりにも積極的に取り組んでいきたいと考えています。

また、当社は産業廃棄物処理業であると同時に、建設現場で使用される再生資源を提供する“商社”としての機能も備えています。今後はグループ会社である石川工務店との連携をさらに強化し、土木工事や水道工事などの分野にもより一層注力しながら、地域社会とともに持続可能な企業活動を展開してまいります。

代表取締役 石川武史さん



岡崎リサイクルセンター株式会社

〒444-0855 岡崎市真宮町2番地6

TEL 0564-52-7200 / FAX 0564-52-9564

【真福寺工場】〒444-2106 岡崎市真福寺町字山ノ田55番地1

【宮 石工場】〒444-2109 岡崎市宮石町字ライヌカソレ2番地1



WEBSITE